【152】

氏名	滝川正巳（たきがわまさみ）
学位の種類	医学博士
学位記番号	論医博第167号
学位授与の日付	昭和39年12月22日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	**人乳歯々頸線の解剖学的研究**
論文調査委員	（主査）教授 堀井五十雄　教授 西村秀雄　教授 岡本道雄

論文内容の要旨

著者は乳歯々頸線の形態を研究し，これが歯冠および歯根の発育とどのような関連性をもっているかを詳細に調査した。

研究に使用した乳歯は歯頸線が鮮明で，歯冠の実質欠損のないものおよび歯根吸収の可久的少ないものを選び，これらを1歯類につき20本以上を厳選し，拡大鏡下で歯頸線の状況を精査し，これの計測ならびに写生を行なった。その結果次のことを知ることができた。

1）乳歯々頸線は小波状を呈し永久歯のものより平坦化している。

2）したがって肉眼的に各歯面の歯頸線を3区分することは永久歯より困難であるが，歯頸部における小波状および鋸歯状凹凸の粗密によりかろうじて区分することができる。

3）拡大鏡下では複雑な鋸歯状が明らかに認められ，特に発育葉の鏡界部には棘状突出或いは切痕状を現わしている。

4）各歯各歯面の歯頸線は中央部とその両側辺の3部に区分することができる。

5）中央部は歯面の固有部で，両側の2部はそれぞれ隣接する歯面の部分と共通である。したがって歯頸線の形態は8部に分けられ，歯冠および歯根の形態と一致している。

6）唇（頰）面および舌面歯頸線の中央部は歯冠中央から続き歯根側に最も突出し（遠心側ほど著明），時として水平或いは歯冠側に凹んでいるが，歯根の溝または隆線の範囲に移行している。

7）隣接面歯頸線の中央部は唇（頰）および舌側辺との境界において，主として歯冠側に彎曲しているが歯冠部の発育が著明なものほど次第に水平化し，ついに歯根側に突出するようになり，この範囲が歯根の隆線或いは溝部に移行している。

8）唇（頰）面の近心および遠心発育葉部の歯頸における範囲は，隣接面の唇（頰）側辺と，また舌面の近，遠心両辺は，隣接面の舌側辺と共通し，前者は後者より中央部との屈曲角度が強い。

9）隣接面の舌側辺は唇側辺より突出が少なく中央部との移行状態は直線に近い。

10）唇（頰）面の歯頚線は舌面や近心面よりも明確に３区分され，かつ，歯冠および歯根との関係も明瞭である。

11）唇面および舌面歯頚線彎曲の突出頂は前者よりも後者の方が遠心位に偏し，また近心面のものより遠心面のものが舌側に偏している。

12）歯頚線の彎曲指数は，唇（頰）面より舌面，遠心面より近心面の方が大きく（例外として下顎乳中切歯は遠心が近心面より著明），また上顎より下顎前歯の方が強い。

13）第１乳臼歯の歯頚線彎曲は上顎では近心面，下顎では頰面が他の歯面よりも特に突出している。

論文審査の結果の要旨

歯頚線は歯冠と歯根との境界にあり，これに２隣接面と唇面，舌面の４部を区別し，歯の発育性状，歯冠，歯根の形態との間にかなりの関連があるものとせられている。著者は比較的よく保存された乳歯を各歯種によって各20例をえらび，乳歯歯頚線の性状をくわしく研究した。

1） 歯頚線は各歯面ともそれぞれ中央部と両辺部とに３分されるが，その区分は永久歯よりも不著明で，かつ歯頚線は一般に永久歯よりも平坦化している。

2） 歯頚線のうち隣接面のものの中央部は唇側，舌側辺との境界で歯冠側に突出しているが，この突出度は歯の発育の状態でかわり歯冠部の発育のよいものほど，水平化する。

3） 歯頚線唇面部の近心，遠心辺部は隣接面のものの唇側辺と共通し，舌面部の近心，遠心辺部は隣接面のものの舌側辺と共通し，前者は後者より中央部との屈曲角度が大である。

4） 歯頚線の彎曲指数は唇面より舌面，遠心面より近心面の方が大であり，上顎より下顎の方が大である。

このように歯頚線の形態は歯の性状，発育状態を反映する特有の像を示すことがわかった。

本論文は学術上有益にして医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。